

エスポワール、2010 年青函レース

回航

昨年、3 枚フェザーリングがレース中にゴミを引っ掛け、スピードダウンする事が多かった為、今年は2枚フォールディングに変更した。

2 年前と同じ燃料を積んで木曜夜 9 時過ぎ、心配して出港の手伝いにきてくれた我妻さんに手を振りながら出港した。エンジン回転数も前回と同じ 2800 回転、スピードは 0.5 ノットほど3枚翼より遅いようだが、波も少なく快適に北上する。しかし翌朝、釜石に差し掛かった時、異常に燃料が減っている事に気付いた。

2枚フォールディングのためだろうか、このままでは函館迄もたない、すぐにセイルヨットに電話をし、宮古で給油できるよう手配をしてもらった。その量 126L、計算上 1.5 倍も燃料を消費していた。

午後 2 時、宮古を出港、燃費改善のため 2600 回転で行くことにした。その時分かったことだが、それでもスピードはまったく変わらなかった。

徐々にガスが濃くなり、雷鳴は聞こえるが、日中のため閃光は見えない。そのまま八戸を過ぎ闇夜の中、六ヶ所村の沖合、風が強くなり雨も降りだし、だいぶ海が荒れてきた。閃光は濃いガスをもものともせず、艇の周りを明るく照らす。

深夜 1 時頃だったろうか、丁度高橋さんがワッチをしている時、船内を真昼のように明るく照らした閃光と雷鳴の衝撃が同時にエスポを襲った。瞬時に私は落ちた！と判断した。エンジンは回っている・・・ 計器盤に目を向けると、赤い豆電球がついている。直撃ではなかったのか？ でも表に居る高橋さんは生きていだろうか？ もしもの事が起きていたらどうしよう。不安ともしもの時の恐怖を抱きながら そっと階段下からデッキを覗いた。動いている物体が見えた。良かった、生きてた(*^_^*)
その時の雷は近くの海面に落ちたとの事でした。

その後、津軽海峡に入り激しい波を受けながら北海道側に渡り、6 ノットオーバーの潮流を避けるために、出来るだけ岸よりを進んだ。しかしそれでも激しい流れの為に、刺し網のボンテンや竹竿が、川面の下の水草のように水面下に完全に没して揺れている。エンジンは甲高く音をならし、波を切って頑張っているのだが、陸の景色はさっぱり変わらない。違和感を持つ。同じ方向に進んでいる小型のヨットは艇泊しているように見える。いやバックしてるのか？

でも何とか函館に入港。真っ先に港近くの星龍軒というおいしい塩ラーメンを食べに走りました。

レース

10 : 10 南西の風・軽風、ゼネリコ後の再スタート。ペナルティーが大きいので無理せず、

上に小樽のファー40 オーシャンボーイ、下に大船渡のミナミの位置で出発、良くもなく悪くもなく。

前日、金さんに船底のチェックをしてもらいコンディションも上々。

今回のレース中の津軽潮流は、海峡の真ん中でもMAXで東流 2 ノット台のため、無理して西に進む必要はない事を前提に、他の艇の動きを見る。

さすがオーシャンボーイはするすると抜け出し、タックして西海面へ。

エスポは暫くの間スタボーのまま南海面へ進む。

他の要注意艇、カヤ、バロネッサ、キホ、ドナセシリア等殆どは西海面に行ったようだ。暫くしてエスポもタックし西へ向かう。

他船との関係は、オーシャンを除きそこそこの位置関係。

しかしバロネッサがスタボーで向かって来た為に、エスポは直前でタックし回避。

バロに「缶ビールをあげるから西に行って」と誘惑したが交渉決裂。

その後徐々にバロを引き離すと、バロはタックして再び西に向かう。軽風以上でのクローズはエスポに軍配有り。なにせこの日の為に新調したドイルメインセール。

暫くしてエスポも西海面目指してタックする。

この時点で遥か西海面に行ったオーシャンともう一艇を除いて、高さで間違いなく勝っている状況に見える。しかしまだ函館湾を出たばかりの2マイル、残りは58マイルもある。

その後南にタックしたが ガスの中に入ってしまう 1~2時間だろうか、他との位置関係は分らなくなってしまう。風が弱い。

徐々にガスが晴れ、前方にオーシャン、右後方にカヤ、その他後方にドナ、キホ、バロらしき船影が見える。

ところが微風アビームの中、巨大な青色ジェネカーのバロに左後方より追い越された。

しかし何故かバロはそのまま西海面へ去っていった。巨大ジェネカー強し、完敗です。

その後、エスポは西側の艇団より初めに風を掴み、針路コンパス 180° で快適に後続艇に差をつけ始めた。(航跡では津軽海峡の真ん中、東南東への航跡となっているのは海流に流されたため)

バロは結局、カヤとか？のグループに吸収され右後方に去ってしまったようだ。後でバロの小笠原さんから聞いた話では、バロは西海面に風があると読んで進んだらしい。

残り2/3程、下北半島の西側に差し掛かると風がどんどん弱くなり、ついには止まってしまった。トップのオーシャンも同様の様子。

エスポの真後ろはキホ、ドナ？1~2 マイル位か。 エスポはアビームらしき微風の中、スピントジブの上げ下げを繰り返し、何とか進もうと頑張る。しかし全くの無風の中、暇を持って余し、なぜかジブを下げてディンギー用サイズ？のジブを揚げて遊び始めてしまう。後ろ向きに放尿を致し、前進力に変えようとする者も。 親潮レースなら間違いなくリタイア。

その様な中、下北半島の麓を、警戒していたヤマハ 33 のスノッティーがひたひたと後

方より、しかし確実に前進し、いつのまにかエスポを抜き、オーシャンをも捕えたと見える。西風の微風が、下北半島の陸にぶつかる手前で海風と合流しているのだろうか、半島沿いに風の帯が北から南に延びていた。これは使えそうだが、しかしそこまで行けない。

夕方を迎えるも、津軽半島に届かず先が長——い。 残りのビールの数が心配になり、1本2000円の有料とする。

闇につつまれ、少し南から風が吹いてきた。しかしこのままではコース短縮も有り得ることから、江口さんの指示の元、タックを繰り返して短縮ゴール地点の津軽半島・平館を目指した。

22時頃、折角短縮ゴール地点に近づくも期待していたコース短縮の連絡は入らず。ゴールまでまだ20マイル、青森の酒場には機走でも間に合わない状況となる。

それからのコースは、本部より注意された蟹田沖の大謀網を避ける為、海峡の中央部に針路を取った。しかしそれがエスポに絶好の風を掴むきっかけとなった。

徐々に南東の風速があがり、MAX16ノット。NO.1 ライトミディアムジブのままクローズで青森港に針路を取る。この風がこのままエスポを青森まで導いてくれることを神様・仏様・イエス様に祈る。

暗闇の中、突然反対タックで進むヨットを右前方に確認。まさか後方の艇に抜かされていたのか？ 或いは前方にいたヤマハ33スノッティーか？ ファー40 オーシャンボーイか？ その艇は我々の直前でミートした。それでも艇名が判明しない。しかしマストの高さがエスポより高く見えた。ファースト45のドナではない。間違いなくオーシャンボーイだ。でも何故こんな所にとと思うがどうでもいい、きっと強風には弱いのだろう。その結果エスポが単独トップで南進する。

メンバーの一人が「このまま完全優勝ですね」と嬉しがる、が、そのような欲張ったことを言ったら必ず逆転されるジnkス！ そのジnkス通り強風は徐々に軽風となっていた。

そうなるとオーシャンボーイには敵わない。そして微風追い風と変わる中、オーシャンボーイの巨大ジェネカーと張り合うも、敵艇はゆっくりと我々を追い抜いていった。

それでも敵艇に出来るだけ離されないよう食らい付くこと4時間、薄い朝靄に包まれた青森港入り口、オーシャンに遅れることたった11分、距離にして30~40艇身だろうか、大健闘での2着04:14'46"ゴールとなった(^.^#)

このレース、今回で3回目となりますが、なぜか着順は3回とも2位、修正総合2位が2回、そして今回は優勝という好成績ばかり。運が良かったのも事実ですが、その運を呼び込むメンバーに恵まれたからこそ成し得たのかなと、感謝です。

さーて、来年は青森スタート、浴衣姿の花火が函館で待っている？
どうしましょう・・・（；ー_ー）。